

実績報告書

届出者	住所	大阪府枚方市出口1丁目1番32号	氏名	理研ビタミン株式会社大阪工場 執行役員工場長 原 守
特定事業者の主たる業種		9食料品製造業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		ふえるワカメ・ワカメスープ・ノンオイルドレッシングなど家庭用食品を中心に製造販売しています。大阪工場においては反応蒸留による濃縮・抽出技術により食品加工用油脂製品の製造・化成品分野においては帯電防止・防曇用乳化剤や食品包装用資材原料の製造を行なっています。		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間	
平成 27 年 4 月 1 日～	平成 30 年 3 月 31 日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(26)年度	前年度(28)年度
温室効果ガス総排出量	11,039 t-CO ₂	10,435 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	11,678 t-CO ₂	11,051 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量	0 t-CO ₂	

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (29 年度)	第1年度 (27 年度)	第2年度 (28 年度)	第3年度 (0 年度)
選択	削減率(排出量ベース)	0 %	0 %	0 %	0 %
	レ 削減率(原単位ベース)	3 %	3.8 %	5.5 %	0 %
削減率(平準化補正ベース)		— %	3.7 %	5.4 %	0 %
吸収量による削減率		0 %	0 %	0 %	0 %

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値 (製品・半製品出荷量)	
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

(4) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理)

照明のLED化・高効率化推進、パトロール1回/月実施による無駄の発見(エア漏れ・蒸気漏れ)の補修対応でエネルギーロス低減活動、高効率モーターの採用とインバーター制御による省エネ、継続的な活動で削減をしています。また製造におけるエネルギー原単位管理の管理幅見直しなどより適正な状態を維持できるようにしています。	
省エネ法に基づく対昨年比1%減を会社・事業所としても取り上げ、大阪工場では「運営方針」の1つに掲げている	

◎ 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策

(1) 推進体制

IS014001システム運用による環境負荷削減、省エネ法に基づく省エネ委員会活動

大阪工場は夏場の冷凍・冷蔵負荷が高くなるため、土日を利用し生産を分散させ平準化を図る。また夜間製造にシフト可能なもののみ夜間製造を行う。

(2) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケ ジュール (年度)
	GHG排出	人工排熱 平準化				
1	レ	GHG排出	大阪工場	コード (1121) 空気比管理	ボイラー定期点検時の空気比確認と調整 (100t-CO2削減) 定期的 to 実施中	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
2	レ	GHG排出	大阪工場	コード (1216) エアコン更新	事務所、製造工程空調機の更新 (5t-CO2 削減) 平成27, 28年度で事務棟の実施	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
3	レ	GHG排出	大阪工場	コード (1114) 蒸気トラップ 管理	製造工程、蒸気トラップ維持管理による 蒸気使用量削減 (250t-CO2削減) 定期的 to 実施中	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
4	レ	GHG排出	大阪工場	コード (1215) 冷凍機更新	冷凍機更新時の高効率化 (10t-CO2削 減) 平成28年度一部実施	27 年度 ～ 29 年度
		人工排熱				
	レ	平準化				
5	レ	GHG排出	大阪工場	コード (1113) コンプレッ サー排熱改善	コンプレッサー排熱処理改善による消費 電力の抑制 (40t-CO2削減) 平成27年度一部実施	27 年度 ～ 29 年度
		人工排熱				
	レ	平準化				
6		GHG排出	大阪工場	コード (5121) 夏期ピークシ フト	土日・夜間へ生産を一部シフト 夏季に実施中	27 年度 ～ 29 年度
		人工排熱				
	レ	平準化				
7	レ	GHG排出	大阪工場	コード (1218) LED化	照明の更なるLED化促進 (20t-CO2削減) 実施中	27 年度 ～ 29 年度
		人工排熱				
	レ	平準化				
8	レ	GHG排出	大阪支店	コード (1199) クールビズ	クールビズ実施 (5/1～10/31) 冷房温度 28℃以上実施 (2t-CO2削減) 実施中	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
9	レ	GHG排出	大阪支店	コード (1199) ウォームビズ	ウォームビズの実施(12/1～3/31) 暖房 温度22℃以下実施 (2t-CO2削減) 実施中	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
10	レ	GHG排出	大阪支店	コード (1218) 消灯活動	昼休み (12 : 10～12 : 50) の消灯 (1t- CO2削減) 実施中	27 年度 ～ 29 年度
		人工排熱				
	レ	平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG)の排出 及び人工排熱 の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	大阪支店	コード (2114)	営業車運行経路、最適ルートを選定と実施 (2t-CO2削減) 効率的運用	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
2	レ	GHG排出	大阪支店	コード (2121)	営業車更新時のハイブリッド車種選定 (5 t -CO2削減) ハイブリッド車採用	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				

(3)その他の抑制対策

実績報告書

届出者	住所	大阪府池田市姫室町13-1	氏名	株式会社リコー 代表取締役 山下 良則
特定事業者の主たる業種		27業務用機械器具製造業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		デバイスの開発・設計		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間	
平成 27 年 4 月 1 日～	平成 30 年 3 月 31 日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(26)年度	前年度(28)年度
温室効果ガス総排出量	10,358 t-CO ₂	8,467 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	11,205 t-CO ₂	9,182 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量	0 t-CO ₂	

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (29 年度)	第1年度 (27 年度)	第2年度 (28 年度)	第3年度 (0 年度)
選択	レ	0 %	0 %	0 %	0 %
	レ	4.8 %	8.7 %	18.3 %	0 %
削減率(平準化補正ベース)		— %	8.5 %	18.1 %	0 %
吸収量による削減率		0 %	0 %	0 %	0 %

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値	(延べ床面積)
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

(4) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理)

<p>平成28年度内においては、エネルギーについては、研究開発部署の一部が関東へ移転(設備含む)したことが、温室効果ガス削減率に大きく寄与している。温暖化効果ガスの使用量については、PFCが減少し、SF6(除害装置)が増加でガス全体では若干の増加です。自動車については、社有車の追加削減を実施する。事業所全体では、エネルギー使用量が減り削減となる。</p>
--

◎ 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策

(1) 推進体制

リコー全社で地球温暖化抑制を含む環境保全活動を進めており、環境マネジメントシステムを構築し、計画的且つ継続的に抑制対策をおこなっています。
 環境推進組織として毎月、排出量の推移、対策の進捗状況を確認して目標の達成を図ります。又個別委員会にて、エネルギー起源CO2の排出について分析（改善への展開）を実施するとともに、従業員への温暖化防止に関する周知を行い、全員参加の活動推進も図ります。

(2) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出及び人工排熱の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	池田事業所	コード (1112) エネルギー分析会議	事業所のエネルギー管理者を中心に1回/月での分析会議を継続的に実施して改善項目の検討と実施。	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
2	レ	GHG排出	池田事業所	コード (1113) 日常管理による保守	設備の維持管理を実施する為に、日常の点検による運用管理の強化。	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
3	レ	GHG排出	池田事業所	コード (5999) 運用管理の徹底	電力デマンド管理の強化、一般事務所とクリーンルーム空調の省エネチューニング	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出及び人工排熱の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	池田事業所	コード (2114) 自動車保有台数削減	ガソリン車の所有数を1台削減する。 ディーゼル車を無くす	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				

(3) その他の抑制対策

実績報告書

届出者	住所	大阪市中央区備後町 2-2-1	氏名	株式会社 りそな銀行 代表取締役社長 東 和浩
特定事業者の主たる業種		62銀行業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		全国で有人店舗を334店舗、店舗外ATM(無人)を542箇所出店し、大阪府内では有人店舗を96店舗、店舗外ATM(無人)を225箇所出店しています。(平成29年3月31日現在)		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間	
平成 27 年 4 月 1 日～	平成 30 年 3 月 31 日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(26)年度	前年度(28)年度
温室効果ガス総排出量	18,149 t-CO ₂	15,867 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	20,565 t-CO ₂	17,970 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量	0 t-CO ₂	

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (29 年度)	第1年度 (27 年度)	第2年度 (28 年度)	第3年度 (0 年度)
選択	レ	削減率(排出量ベース)	3 %	2.61 %	12.57 %
		削減率(原単位ベース)	0 %	0 %	0 %
削減率(平準化補正ベース)		— %	2.78 %	12.61 %	0 %
吸収量による削減率		0 %	0 %	0 %	0 %

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値 ()	
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

(4) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理)

<ul style="list-style-type: none"> ・平成28年度の温室効果ガス削減率は、12.57%です。 ・個別の削減率は、都市ガス：27.5%減、電気：9.7%減、ガソリン：23.3%減です。 ・大幅な削減の要因は、本町センタービルの閉館に伴うエネルギー使用量の減少です。 ・今後とも、エネルギー使用量の削減をし、温室効果ガス排出抑制に努める所存です。 	
--	--

◎ 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策

(1) 推進体制

<ul style="list-style-type: none"> ・建物の維持管理やエネルギー使用量等に関しましては、従来より専門部署にて対応しております。 ・大阪本社においては、環境マネジメントシステム『ISO14001』を取得しております。 ・また、全事業所の管理につきましても専門部署にて対応しており、今後もこの体制維持による環境負荷低減に取り組んでまいります。

(2) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	りそな銀行 本店	コード (1111) 環境マネジメントシステムの導入	環境マネジメントシステムを導入し、社内組織の強化と社内体制の整備を行なう。 ※H28年度実施済み	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
2	レ	GHG排出	りそな銀行 本店	コード (1112) エネルギーの使用に関するデータ管理	エネルギー管理を実施し、機器や設備の保守状況や運転時間等を比較検討し、劣化状況や保守時期等を把握する。 ※H28年度実施済み	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
3	レ	GHG排出	りそな銀行 本店	コード (1114) 保守及び点検	機器や設備の保守管理により、効率化運転を図る。 ※H28年度実施済み	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
4	レ	GHG排出	りそな銀行 本店 全営業店	コード (1122) 推奨設定温度の実行	冷暖房温度を政府推奨設定温度に推進する。(年間550 tCO2を削減) ※H28年度実施済み	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
5	レ	GHG排出	りそな銀行 本店	コード (1126) 運転時間の削減	冷暖房設備の運転時間を削減する。(年間222 tCO2を削減) ※H28年度実施済み	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
6	レ	GHG排出	りそな銀行 本店	コード (1126) 運転時間の削減	厨房排気ファンの運転時間制御をする。(年間12 tCO2を削減) ※H28年度実施済み	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
7	レ	GHG排出	りそな銀行 本店 全営業店	コード (1126) 適正照度の確保	適正照度を確保する為に照明器具清掃、ランプ交換等を行なう。 ※H28年度実施済み	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
8	レ	GHG排出	りそな銀行 本店 全営業店	コード (5111) 夏の昼間・冬の朝夕の対策	電気の需要の平準化対策の一環として適温設定の徹底、空調時間を削減する。 ※H28年度実施済み	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
9	レ	GHG排出	りそな銀行 本店 全営業店	コード (5112) 夏の昼間・冬の朝夕の対策	電気の需要の平準化対策の一環として適正照度の確保、使用室以外の消灯徹底。 ※H28年度実施済み	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG)の排出 及び人工排熱 の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	りそな銀行 本店	コード(2111) 環境マネジメントシステム の導入	環境マネジメントシステムを導入し、 社内組織の強化と社内体制の整備を 行なう。 ※H28年度実施済み	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
2	レ	GHG排出	りそな銀行 本店	コード(2112) エネルギーの 使用に関する データ管理	車両ごとの走行距離や燃料使用量等の データを取り、燃費管理を実施する。 ※H28年度実施済み	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
3	レ	GHG排出	りそな銀行 本店	コード(2114) 自動車の適正 な維持管理	自動車の日常及び定期的な点検・整備 を実施し、良好な状態を維持する。 ※H28年度実施済み	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
4	レ	GHG排出	りそな銀行 本店	コード(2123) エコドライブ の推進	運転者に、エコドライブの実践方法等 の教育を行い、周知徹底する。 ※H28年度実施済み	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				

(3)その他の抑制対策

<p>特記なし</p>

実績報告書

届出者	住所	大阪府泉南市男里4-33-7	氏名	株式会社 リバース 代表取締役 谷 マリ子
特定事業者の主たる業種		14パルプ・紙・紙加工品製造業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		当社リバースは牛乳パック、機密書類、オフィス古紙等を収集し、リサイクルトイレットペーパーを製造し、販売している会社です。		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間					
平成	27	年	4	月	1
			日	～	平成
			日	平成	30
			年	3	月
			31	日	(3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(26)年度	前年度(28)年度
温室効果ガス総排出量	18,388 t-CO ₂	17,979 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	19,416 t-CO ₂	19,064 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量	0 t-CO ₂	

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (29 年度)	第1年度 (27 年度)	第2年度 (28 年度)	第3年度 (0 年度)
選択	レ	削減率(排出量ベース)	0 %	0 %	0 %
		削減率(原単位ベース)	1.2 %	4.2 %	6.8 %
削減率(平準化補正ベース)		-	3.9 %	6.4 %	0 %
吸収量による削減率		0 %	0 %	0 %	0 %

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値	(年間生産金額)
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

(4) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理

<p>過去最高の生産が出来ているため、それに比例し、電気エネルギーは若干増加傾向にあった。ガス使用に関しては、紙の水分を測定し、必要な箇所に熱風炉あてるよう運用変更したため、若干削減傾向になった。非エネCO2に対しても燃焼調整や節水を意識し、取組んだ。</p>
--

◎ 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策

(1) 推進体制

毎週行われる生産経営会議の一環で、省エネや業務改善に関する事も議論すると共に職員には省エネ・改善の啓発を行い、低減に努めている。

①省エネ・改善会議の開催 H28年度47回

②主な省エネ改善はa)工場照明をほぼ全てLED化したb)ポンプのインバータ化c)ポンプのダウンサイジング化d)電気リフトに一部変更した(2台導入)

③エネルギー使用量や料金に関しても啓発した

④他社による省エネ診断を活用し、取組める題材を探している

⑤平準化対策は、お客様と操業に支障でない範囲で、昼間止められる設備を停止した。

(2) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス(GHG)の排出及び人工排熱の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール(年度)
1	レ	GHG排出	泉南工場	コード(1114) 機器の維持管理	ファン・ポンプの適切な維持管理 軸受等の定期交換で、モーター負荷を低減させる	29年度 ～ 29年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
2	レ	GHG排出	泉南工場	コード(1215) ポンプの省エネ	実情の使用状況(流量・弁開度など)や揚程に見合い、ポンプのインバータ化やエコポンプ化を行い。	29年度 ～ 30年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
3	レ	GHG排出	泉南工場	コード(1218) 水銀灯からLED照明へ更新	各作業等のLED化はほぼ行った。数は少ないが外灯に関するLED化を進めて行く	29年度 ～ 30年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
4	レ	GHG排出	泉南工場	コード(1114) 保温材の点検・補修	経年劣化した配管保温材は更新して行く。また、ドレントラップ等も動作不良の物は更新する	29年度 ～ 30年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
5	レ	GHG排出	泉南工場	コード(5121) 原料調整工程でのピークシフト	生産に影響でない範囲で原料調整工程でのピークシフトを引続き継続する。原料のレベルを見て一時的な間欠運転を行う。	29年度 ～ 30年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
6	レ	GHG排出	泉南工場 大阪営業所	コード(5115) 啓発	電気使用量・料金の意識啓発	29年度 ～ 30年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
7	レ	GHG排出	泉南工場	コード(1216) 遮熱工法の検討とエアコンサンシェード検討	屋根の遮熱工法を検討し、職員の温熱環境下での作業を改善する。また、エアコンのサンシェードを検討し、エアコン負荷を下げる	28年度 ～ 30年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
8	レ	GHG排出	泉南工場	コード(5221) ルーツブロワからターボブロワへの更新	1台で3台分を補えるターボブロワを導入する事で、年間約9.1万Kw低減できる試算を受け、29年度内で導入改善する	29年度 ～ 29年度
	レ	人工排熱				
		平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG)の排出 及び人工排熱 の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	大阪営業所	コード (2113) 燃費の意識を 啓発	自動車毎の燃費管理を行い、エコドライブ を意識する。	29 年度 ～ 30 年度
	レ	人工排熱				

(3)その他の抑制対策

生産の見える化を少しずつ行っており、稼働状況や機器のリアルタイムトレンドを見て、現状を把握し、非効率的な部分は合理化または定期交換する事により、より少ない動力・人員で効率的に生産出来るよう技術を推進して行く

実績報告書

届出者	住所	埼玉県草加市遊馬町769-1	氏名	株式会社 流通サービス 代表取締役社長 神田 隆
特定事業者の主たる業種		44道路貨物運送業		
該当する特定事業者の要件			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		埼玉県草加市に本社を配置し、主に生活協同組合の個人宅配の配送を行っており、その他、店舗配送や基幹物流等の一般運送も行っております。全国に107の事業所を配置し、大阪府内では、9の事業所を展開しております。		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間	
平成 27 年 4 月 1 日～	平成 30 年 3 月 31 日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(26)年度	前年度(28)年度
温室効果ガス総排出量	1,056 t-CO ₂	1,211 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	1,056 t-CO ₂	0 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO ₂

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (29 年度)	第1年度 (27 年度)	第2年度 (28 年度)	第3年度 (0 年度)
選択	レ	削減率(排出量ベース)	3 %	-4 %	-14.7 %
		削減率(原単位ベース)	0 %	0 %	0 %
削減率(平準化補正ベース)		— %	0 %	0 %	0 %
吸収量による削減率		0 %	0 %	0 %	0 %

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値 ()	
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

(4) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理)

<p>車両台数は3台減少したが、1台当たりの走行距離と給油量が増加し排出量が増加した。ガソリン車、軽油車は燃費が向上したが、LPG車の燃費が悪化した。燃費が悪く年式の古いLPG車両を燃費の良い軽油車へ代替する事を計画的に実施する。</p>	
---	--

◎ 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策

(1) 推進体制

全社的な取り組みとして独自の流通サービス エコアクションを通年で実施し、7月1日から9月30日を強化期間とし、省エネ運転を行い燃費向上に努めている。

(2) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	GHG排出		コード		年度 ～ 年度
	人工排熱				
	平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ GHG排出	全ての事業所	コード (2123) エコドライブの推進	事業用トラックでのエコドライブ運動実施とエコドライブ教育の充実。	27 年度 ～ 29 年度
	レ 人工排熱				
2	レ GHG排出	全ての事業所	コード (2121) 低燃費車の導入	車両代替時に、新型軽油車両の導入。	27 年度 ～ 29 年度
	レ 人工排熱				
3	レ GHG排出	全ての事業所	コード (2113) 自動車の使用管理	当社独自のシステムを使用し、走行実績、給油量の集計を行い、燃費状況の把握・エネルギー使用状況を確認し燃費向上を図る。	27 年度 ～ 29 年度
	レ 人工排熱				
4	レ GHG排出	全ての事業所	コード (2126) 輸送の効率化	業務形態に合致する車両の導入を図り、燃費向上・配送効率向上を図る。(軽自動車の導入)	27 年度 ～ 29 年度
	レ 人工排熱				

(3) その他の抑制対策

実績報告書

届出者	住所	大阪府松原市三宅中8-1250-3	氏名	株式会社 リンク 代表取締役 朝田 健次
特定事業者の主たる業種		70物品賃貸業		
該当する特定事業者の要件			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		建設機械リース・レンタル・販売・修理		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間	
平成 27 年 4 月 1 日～	平成 30 年 3 月 31 日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(26)年度	前年度(28)年度
温室効果ガス総排出量	3,559 t-CO ₂	3,423 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	3,559 t-CO ₂	0 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO ₂

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (29 年度)	第1年度 (27 年度)	第2年度 (28 年度)	第3年度 (0 年度)
選択	レ	削減率(排出量ベース)	3 %	7.1 %	3.9 %
		削減率(原単位ベース)	0 %	0 %	0 %
削減率(平準化補正ベース)		— %	0 %	0 %	0 %
吸収量による削減率		0 %	0 %	0 %	0 %

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値 ()	
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

(4) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理)

<p>車両の総台数では増加しているが、今年度100台程低年式の車両を売却する。又、報告書の中に奈良ナンバーの車両が何台か入っていたのと、軽自動車の報告漏れがあり、プラスマイナスで現状の台数となる。次年度については、まだまだ低年式の車両が多いので、今年度と同数程度の低年式車両を廃棄し、よりクリーンな車両の貸出しを目指す。</p>
--

◎ 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策

(1) 推進体制

引き続き総務部を責任部署として経費節減と同時に省エネ対策、温暖化対策等に取り組んでいます。

(2) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	GHG 排出		コード		27 年度 ～ 29 年度
	人工排熱				
	平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ GHG 排出	各営業所	コード (2111) 温暖化防止の 為の責任者設 置	業務課 (整備係) を責任部署として温暖 化防止に努める	27 年度 ～ 29 年度
	レ 人工排熱				
2	レ GHG 排出	全事業所	コード (2123) エコドライブ の推進	点検・整備・清掃時のアイドリングス トップの徹底。お客様の教育。	27 年度 ～ 29 年度
	レ 人工排熱				

(3) その他の抑制対策

実績報告書

届出者	住所	東京都千代田区神田神保町1-11 さくら総合事務所内	氏名	りんくうゲート株式会社 代表取締役 安藤 隆夫
特定事業者の主たる業種		69不動産賃貸業・管理業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		不動産賃貸・管理業（ビルのテナント誘致、運営管理）		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間	
平成 27 年 4 月 1 日～	平成 30 年 3 月 31 日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(26)年度	前年度(28)年度
温室効果ガス総排出量	8,559 t-CO ₂	8,719 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	9,229 t-CO ₂	9,736 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO ₂

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (29 年度)	第1年度 (27 年度)	第2年度 (28 年度)	第3年度 (29 年度)
選択	レ	削減率(排出量ベース)	0 %	0 %	0 %
	レ	削減率(原単位ベース)	3.2 %	18.4 %	11.2 %
削減率(平準化補正ベース)		— %	15.7 %	8.1 %	0 %
吸収量による削減率		0 %	0 %	0 %	0 %

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値 (床面積)	
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

(4) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理

<p>2014年度末から2015年度初頭にかけて、高効率な自主熱源を導入・切替を行いました。その後、各種熱源設備のチューニングや、運用方法最適化を行い、入居しているホテル・飲食・フィットネス・クリニック・事務所等の各テナントの協力と理解を得て、省エネ対策を積極的に推進し、実施温室効果ガスを原単位ベース11.2%標準化補正ベース8.1%になっております。</p>	
---	--

◎ 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策

(1) 推進体制

ビル全体で温暖化対策に取り組む為、管理事務所員及び設備管理担当業務員を含む、全従業員による省エネルギーを意識しての、業務への取り組みを継続実施し、省エネルギーを推進するように計画致します。

(2) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	りんくう ゲートタ ワービル	コード (1218) 駐車場照明の LED化	24時間点灯している駐車場基本照明を LED照明器具へ更新。	28 年度 ～ 29 年度
		人工排熱				
	レ	平準化				
2	レ	GHG排出	りんくう ゲートタ ワービル	コード (1113) 熱源設備の運 転最適化	熱源機器の運用について発停スケジュール を最適化及び運用基準を定め効率化を 図ります。(予算の都合上、28年度～29 年度の実施予定とします。)	27 年度 ～ 28 年度
		人工排熱				
	レ	平準化				
3	レ	GHG排出	りんくう ゲートタ ワービル	コード (1216) 熱源ポンプイ ンバーター周 波数チューニ ング	熱源ポンプの流量制御を手動バルブの開度 にて調整していたものを、ポンプインバーター 周波数を調整することにより効率化を図り ます。(予算の都合上、28年度～29年度の実 施予定とします。)	27 年度 ～ 28 年度
		人工排熱				
	レ	平準化				
4	レ	GHG排出	りんくう ゲートタ ワービル	コード (1199) 熱源機器の チューニング	熱源機器に合わせ、負荷側機器の圧力・流 量・温度等を計測・分析し、それぞれチュー ニングすることにより、効率化を図ります。 (予算の都合上、28年度～30年度の実施予 定とします。)	27 年度 ～ 29 年度
		人工排熱				
		平準化				
5	レ	GHG排出	駅北駐車場	コード (1218) 駐車場照明の LED化	24時間点灯している駐車場基本照明を LED照明器具へ更新。	28 年度 ～ 30 年度
		人工排熱				
	レ	平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1		GHG排出		コード		年度 ～ 年度
		人工排熱				

(3) その他の抑制対策

実績報告書

	届出者住所	大阪府泉佐野市りんくう往来北 2番地の23	氏名	(地独) りんくう総合医療センター 理事長 八木原 俊克
特定事業者の主たる業種		83医療業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		<p>1952年8月に市立泉佐野病院として開院。2011年4月に地方独立行政法人りんくう総合医療センターに移行。2013年4月には大阪府立泉州救命救急センターと統合し388床、医師120余名の基幹病院として、急性期を含む専門医療を提供。</p> <p>感染症センターや国際診療科が有り、2013年3月には外国人患者受入れ医療機関認証制度を認証取得。</p>		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間					
平成	27	年	4	月	1
			日	～	平成
			30	年	3
			月	31	日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(26)年度	前年度(28)年度
温室効果ガス総排出量	6,771 t-CO ₂	7,078 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量 (平準化補正後)	7,396 t-CO ₂	7,773 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量	0 t-CO ₂	

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (29 年度)	第1年度 (27 年度)	第2年度 (28 年度)	第3年度 (0 年度)
選択	レ	削減率 (排出量ベース)	3 %	3.1 %	-4.6 %
		削減率 (原単位ベース)	0 %	0 %	0 %
削減率 (平準化補正ベース)		— %	3.2 %	-5.1 %	0 %
吸収量による削減率		0 %	0 %	0 %	0 %

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容 (目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値 ()	
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

(4) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理

<p>H26年度4月よりESCO事業を導入 平成28年度、蒸気配管設備の劣化に伴う、故障、トラブルが発生し効率が低下した。</p>	
---	--

◎ 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策

(1) 推進体制

施設管理担当部署がエネルギー総使用実態を把握検討し、温室効果ガスの抑制活動を推進していきます。

(2) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス(GHG)の排出及び人工排熱の区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール(年度)
1	レ GHG排出	りんくう総合医療センター	コード(1125) 室内の温度上昇防止	空調効率を上げるため、支障の無い限り窓のブラインドを下ろす、27年度以降も継続して運用していく。	27年度～ 29年度
	レ 人工排熱				
	レ 平準化				
2	レ GHG排出	りんくう総合医療センター	コード(1199) 必要最小限の照明による電気使用量の低減	必要最小限の照明とするため、通路・倉庫等、照明を間引き点灯しているがさらに追加間引きを行う、27年度以降も継続して運用していく。	27年度～ 29年度
	レ 人工排熱				
	レ 平準化				
3	レ GHG排出	りんくう総合医療センター	コード(1199) 不必要な照明の消灯による電気使用量の低減	事務所の一部照明に紐付きSWを導入し、離席・外出・休憩等は個別に消灯する、27年度以降も継続して運用していく。	27年度～ 29年度
	レ 人工排熱				
	レ 平準化				
4	レ GHG排出	りんくう総合医療センター	コード(1199) 不必要な照明の消灯による電気使用量の低減	昼休み等、業務の時間以外は可能な限り消灯を実施し全職員の省エネ行動を徹底する、27年度以降も継続して運用していく。	27年度～ 29年度
	レ 人工排熱				
	レ 平準化				
5	レ GHG排出	りんくう総合医療センター	コード(1218) 省エネ型照明器具の導入	照明を蛍光灯・白熱灯より順次LED照明へ変更していく、27年度以降も継続して運用していく。	27年度～ 29年度
	レ 人工排熱				
	レ 平準化				
6	レ GHG排出	りんくう総合医療センター	コード(1114) 日、月、年点検実施	電気設備、機械設備の日常・月例・年次点検の実施、27年度以降も継続して運用していく。	27年度～ 29年度
	レ 人工排熱				
	レ 平準化				
7	レ GHG排出	りんくう総合医療センター	コード(1114) 空調機効率運転	空調機の点検(1回/月)と効率運転の為にプレフィルター清掃(1回/2～3ヶ月)、27年度以降も継続して運用していく。	27年度～ 29年度
	レ 人工排熱				
	レ 平準化				
8	レ GHG排出	りんくう総合医療センター	コード(1113) ファンコイルユニットの効率運転	各病室、ナースセンターに設置されているファンコイルユニットの効率運転の為にプレフィルター清掃(1回/月)、27年度以降も継続して運用していく	27年度～ 29年度
	レ 人工排熱				
	レ 平準化				
9	レ GHG排出	りんくう総合医療センター	コード(1113) 運転効率の低下防止	各ファンの駆動部に定期的(1回/2～3ヶ月)にグリスアップを行い運転効率の低下を防ぐ、27年度以降も継続して運用していく。	27年度～ 29年度
	レ 人工排熱				
	レ 平準化				
10	レ GHG排出	りんくう総合医療センター	コード(1299) 散水使用量の低減	植栽への散水に雨水検知器を取り付け、散水使用量の低減、27年度以降も継続して運用していく。	27年度～ 29年度
	レ 人工排熱				
	レ 平準化				

11	レ	GHG排出	りんくう総合医療センター	コード(1113) 電気使用量の低減	夏、冬の日照時間の違いにより照明時間の変更を行う(街灯関係)、27年度以降も継続して運用していく。	27年度 ～ 29年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
12	レ	GHG排出	りんくう総合医療センター	コード(5221) 高効率型冷却塔への更新	冷却塔を高効率型へ更新し、27年度から運用開始していく。	27年度 ～ 29年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
13	レ	GHG排出	りんくう総合医療センター	コード(1113) 契約電力の保持	夏場の電気使用ピーク時にデマンド制御を行い警報が出た場合、あまり影響の無い設備をOFFにし、契約電力の保持に努める	28年度 ～ 30年度
	レ	人工排熱				
		平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス(GHG)の排出及び人工排熱の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール(年度)
1		GHG排出		コード		年度 ～ 年度
		人工排熱				

(3)その他の抑制対策
